

秋田県文化財調査報告書第486集

遺跡詳細分布調査報告書

2013・3

秋田県教育委員会

シンボルマークは、北秋田市白坂（しろざか）遺跡出土の「岩罫」です。

縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

遺跡詳細分布調査報告書

2013・3

秋田県教育委員会

序

本県には、これまでに発見された約4,900か所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これら埋蔵文化財の保存・継承と積極的活用は、地域社会の歴史や文化に親しみ、理解を深め、ふるさとを愛する人づくりにつながります。

一方、本県では道路網や河川の整備など、豊かで快適な生活を築くための地域開発が大規模に行われ、埋蔵文化財保護との調和を図ることが急務となっております。遺跡分布調査と遺跡確認調査はそのための基礎資料となるものです。

本報告書は、平成24年度に国庫補助事業として実施した、国道のバイパス建設事業、河川改修事業、主要地方道建設事業などに係る遺跡分布調査と遺跡確認調査の結果をまとめたものです。

報告書をまとめるにあたり、調査に協力いただきました関係各機関に感謝申し上げるとともに、今後とも埋蔵文化財の保護につきまして御理解と御協力をいただきますようお願い申し上げます。

平成25年3月

秋田県教育委員会

教育長 米 田 進

例 言

- 1 本報告書は平成24年度に秋田県教育委員会が国庫補助金を得て実施した、遺跡分布調査と遺跡確認調査の報告書である。また、平成24年1月から3月に実施した遺跡分布調査の結果報告を平成23年度補足分として掲載した。
- 2 本報告書に収録の遺跡分布調査、確認調査は、秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室、秋田県埋蔵文化財センターの職員が担当した。報告は、遺跡分布調査については秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室が、遺跡確認調査については各調査担当者がそれぞれ作成したものを秋田県埋蔵文化財センターが編集した。
- 3 本報告書に掲載した地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図を複製した。掲載した地図はすべて最新版を使用し、図名は各地図の右下に記載した。地図はすべて真上が世界測地形座標北である。また、平面図は国土交通省・秋田県建設部が作成した図を複製して掲載した。

目 次

序

例言

目次

第1章	はじめに	1
第2章	実施要項	1
第1節	遺跡分布調査	1
第2節	遺跡確認調査	4
第3章	調査の記録	6
第1節	遺跡分布調査	6
1	平成23年度補足分	6
(1)	一般国道7号下浜バイパス建設事業	6
(2)	一般県道北の又井川線建設事業	6
(3)	国道285号国道改築事業(中津又工区)	7
(4)	旧県立湯沢商工高校解体事業	7
(5)	県立能代北高校解体事業	8
(6)	大仙警察署改築事業	8
2	平成24年度分	9
(1)	長走登坂車線整備事業	9
(2)	米代川河川改修事業(外面地区河道掘削)	9
(3)	金足自歩道工事	10
(4)	石脇地区河道掘削護岸工事	10
(5)	一般国道13号院内道路建設事業	11
(6)	醍醐交差点改良	11
(7)	雄物川上流河川改修事業(寺館・大巻地区)	12
(8)	雄物川上流河川改修事業(西板戸地区)	13
(9)	雄物川上流河川改修事業(中村・芦沢地区)	13
(10)	国道108号国道改築事業	14
(11)	主要地方道象潟矢島線建設事業	14
(12)	主要地方道大館能代空港西線建設事業	15
(13)	主要地方道川添下浜停車場線建設事業	15
(14)	一般県道秋田八郎潟線建設事業	16
(15)	大館第2工業団地造成事業	16

第2節 遺跡確認調査

1	一般県道北の又井川線建設事業	17
(1)	坂本湊城跡	17
2	雄物川上流河川改修事業(西板戸地区)	22
(1)	十二袋遺跡	22
3	雄物川上流河川改修事業(寺館・大巻地区)	28
(1)	大川端道ノ上遺跡	28
4	雄物川上流河川改修事業(中村・芦沢地区)	35
(1)	峰吉川中村遺跡	35

第1章 はじめに

国庫補助を得て実施した遺跡詳細分布調査のうち、平成24年1月～3月に実施した平成23年度の補足分は、一般国道7号下浜バイパス建設事業、一般県道北の又井川線建設事業、国道285号国道改築事業(中津又工区)等に係る試掘調査等6件である。平成24年4月～12月には、一般国道13号院内道路建設事業、米代川河川改修事業、石脇地区河道掘削護岸工事、雄物川上流河川改修事業、主要地方道大館能代空港西線建設事業、一般県道秋田八郎潟線建設事業等に係る試掘調査等15件と、雄物川上流河川改修事業、及び一般県道北の又井川線建設事業に係る遺跡確認調査4件を実施した。これらの調査はすでに策定してある調査要項に基づいて、秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室職員、秋田県埋蔵文化財センター職員が、地元教育委員会の協力を得て実施したものである。

第2章 実施要項

第1節 遺跡分布調査

1 調査の目的

開発予定地内を踏査・試掘して遺跡の有無を確認し、遺跡の保護策を講ずる。

2 調査の方法

- (1) 計画地域の範囲内で遺物の表面採集及び試掘調査を実施して遺跡の所在を確認するとともに、遺跡の性格についても把握する。
- (2) 確認された遺跡は地図に記入する。
- (3) 遺跡の状況、遠景を写真撮影し、遺跡の概要も記録する。

3 事業主体者

秋田県教育委員会

4 調査担当者

秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室	主任学芸主事	高橋	学
	学芸主事	磯村	亨
	文化財主査	宇田川	浩一(平成24年3月まで)
	文化財主任	新海	和広

※調査に当たっては以下の各教育委員会の方々に御協力いただいた。

北秋田市教育委員会	榎本	剛治
八郎潟町教育委員会	伊藤	禎倫
由利本荘市教育委員会	三原	裕姫子
にかほ市教育委員会	齋藤	一樹
	石船	清隆
湯沢市教育委員会	金野	寛子

5 調査対象地域及び事業名

※平成23年度補足分(平成24年1月～3月)

No	事業者	事業名	事業地	調査期間	調査内容	調査結果
1	国土交通省	一般国道7号 下浜バイパス建設事業	秋田市	1月24・25日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
2	建設交通部	一般県道北の又井川線 建設事業	井川町	2月28日	試掘	事業地内で周知の遺跡1か所(坂本湊城跡)を確認した。
3	建設交通部	国道285号国道改築 事業(中津又工区)	五城目町	3月15日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
4	教育庁	旧県立湯沢商工高校 解体事業	湯沢市	3月22・28日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
5	教育庁	県立能代北高校解体 事業	能代市	3月26・27日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
6	県警本部	大仙警察署改築事業	大仙市	2月14日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。

※平成24年度分(平成24年4月～12月)

No	事業者	事業名	事業地	調査期間	調査内容	調査結果
1	国土交通省	長走登坂車線整備事業	大館市	10月10日	踏査	来年度以降対応必要。
2	国土交通省	米代川河川改修事業 (外面地区河道掘削)	能代市	11月6日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
3	国土交通省	金足自歩道工事	秋田市	5月11日、 9月28・29日	踏査・ 試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
4	国土交通省	石脇地区河道掘削護岸 工事	由利本荘市	9月28日	試掘	事業地内で周知の遺跡1か所(子吉川底遺跡)を確認した。
5	国土交通省	一般国道13号院内道路 建設事業	湯沢市	5月16日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
6	国土交通省	醍醐交差点改良	横手市	10月2日	踏査	来年度以降対応必要。
7	国土交通省	雄物川上流河川改修 事業(寺館・大巻地区)	大仙市	5月30日、 6月7・8・15日、 12月20日	踏査・ 試掘	事業地内で周知の遺跡1か所(大川端道ノ上遺跡)を確認した。
8	国土交通省	雄物川上流河川改修 事業(西板戸地区)	大仙市	5月2日、6月7・15日	踏査・ 試掘	事業地内で新発見の遺跡1か所(西板戸遺跡)を確認した。
9	国土交通省	雄物川上流河川改修 事業(中村・芦沢地区)	大仙市	6月29日、7月20日、 8月30・31日、 12月20日	踏査・ 試掘	事業地内で新発見の遺跡1か所(峰吉川中村遺跡)を確認した。
10	建設部	国道108号国道改築 事業	湯沢市	5月22日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。

No.	事業者	事業名	事業地	調査期間	調査内容	調査結果
11	建設部	主要地方道象潟矢島線建設事業	にかほ市	5月25日、11月2日	踏査・試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
12	建設部	主要地方道大館能代空港西線建設事業	北秋田市	6月18日、 10月10・11・19日、 12月11・12日	踏査・試掘	事業地内で周知の遺跡2か所(観音堂伝遺跡、小勝田館跡)を確認した。
13	建設部	主要地方道川添下浜停車場線建設事業	秋田市	10月18日	踏査	事業地内で周知の遺跡1か所(河童長根遺跡)を確認した。
14	建設部	一般県道秋田八郎潟線建設事業	八郎潟町	10月22・23日	踏査・試掘	事業地内で周知の遺跡1か所(貝保遺跡)を確認した。
15	産業労働部	大館第2工業団地造成事業	大館市	10月30日	踏査	来年度以降対応必要。

※平成24年度工事立会(平成24年4月～12月)

No.	事業者	事業名	事業地	立会期間	立会結果	備考
1	国土交通省	上院内チェーン着脱所設置工事	湯沢市	11月26日・30日	遺構・遺物は確認できなかった。	釜ノ上II遺跡
2	建設部	主要地方道白沢田代線建設事業	大館市	10月30日、 11月21日	遺構・遺物は確認できなかった。	中茂屋遺跡
3	建設部	主要地方道北の又井川線建設事業	井川町	4月13日	歩道幅を拡幅し、断面にて盛土遺構を確認し、記録作成。	坂本湊城跡

第2節 遺跡確認調査

1 調査の目的

開発事業計画に係る遺跡の広がり、埋没の度合い、時代とその性格を知るために当該地域での遺物の表面採集及び小規模の発掘調査（遺構確認面までの掘り下げ）を行い、当該埋蔵文化財の保護と保存を図る。

2 調査の方法

- (1) 地形を考慮した試掘坑を設定して行う。また、遺構などが確認された場合、できる限り面的に調査範囲を広げてその確認に努める。
- (2) 確認された遺構・遺物、遺物包含層、堆積土の厚さ等は、実測図などにより記録する。また、遺跡の全景と調査状況、遺構・遺物の確認状況等は写真撮影する。
- (3) 使用する地形図は開発部局で作成した最大縮尺の図面とする。

3 事業主体者

秋田県教育委員会

4 調査担当者

秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室

学芸主事 磯村 亨

秋田県埋蔵文化財センター

学芸主事 水品 仁志

学芸主事 佐々木尚人

文化財主査 村上 義直

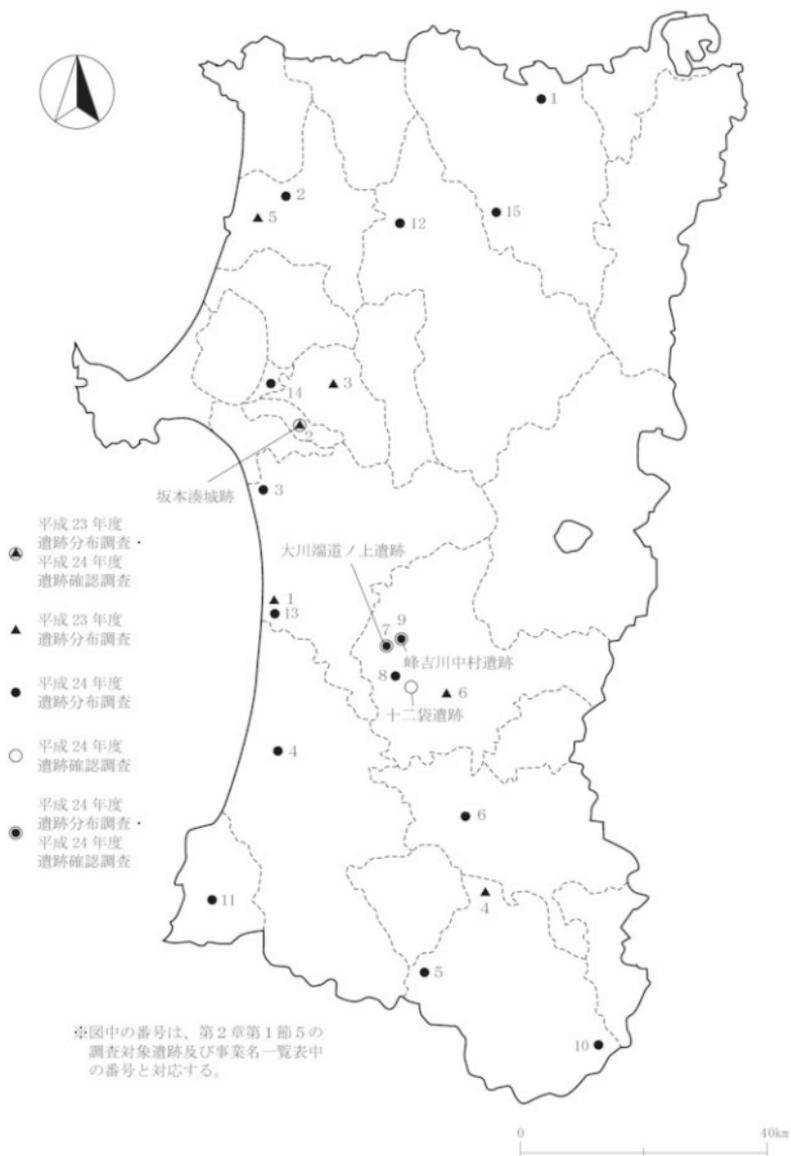
文化財主事 高橋 和成

文化財主事 伊豆 俊祐

調査・研究員 長澤 隆広

5 調査対象遺跡及び事業名

No.	事業名	遺跡名(所在地)	調査期間	調査担当者
1	一般県道北の又井川線建設事業	坂本漆城跡(井川町)	平成24年4月13日	磯村
2	雄物川上流河川改修事業(西板戸地区)	十二袋遺跡(大仙市)	平成24年5月24日 ～5月30日	佐々木・高橋・長澤
3	雄物川上流河川改修事業(寺館・大巻地区)	大川端道ノ上遺跡(大仙市)	平成24年5月30日 ～6月8日	佐々木・高橋・長澤
4	雄物川上流河川改修事業(中村・岩沢地区)	峰吉川中村遺跡(大仙市)	平成24年10月22日 ～11月2日	水品・村上・伊豆



第1図 遺跡分布調査・遺跡確認調査地点図

第3章 調査の記録

第1節 遺跡分布調査

1 平成23年度補足分

(1) 一般国道7号下浜バイパス建設事業

事業予定地のうち長浜地区の区間について試掘調査を実施した。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。

本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	秋田市下浜長浜	..	山林	なし	



第2図 一般国道7号下浜バイパス建設事業 遺跡分布調査位置図

(2) 一般県道北の又井川線建設事業

事業予定地について試掘調査を実施した。

調査の結果、周知の遺跡1か所(坂本湊城跡)を確認した。

事業の進捗に合わせて確認調査等の対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	坂本湊城跡	井川町坂本	中世	道路	土塁	周知の遺跡



第3図 一般県道北の又井川線建設事業 遺跡分布調査位置図

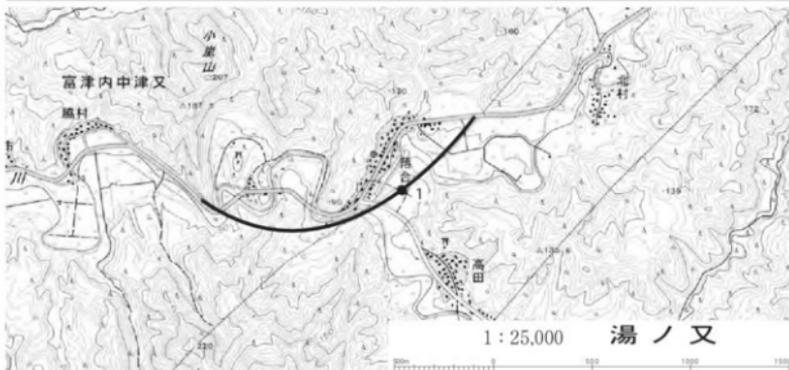
(3) 国道285号国道改築事業(中津又工区)

事業予定地について試掘調査を実施した。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。

本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	五城目町中津又	..	水田、宅地	なし	



第4図 国道285号国道改築事業(中津又工区) 遺跡分布調査位置図

(4) 旧県立湯沢商工高校解体事業

事業予定地について試掘調査を実施した。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。

本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	湯沢市成沢	..	学校敷地	なし	



第5図 旧県立湯沢商工高校解体事業 遺跡分布調査位置図

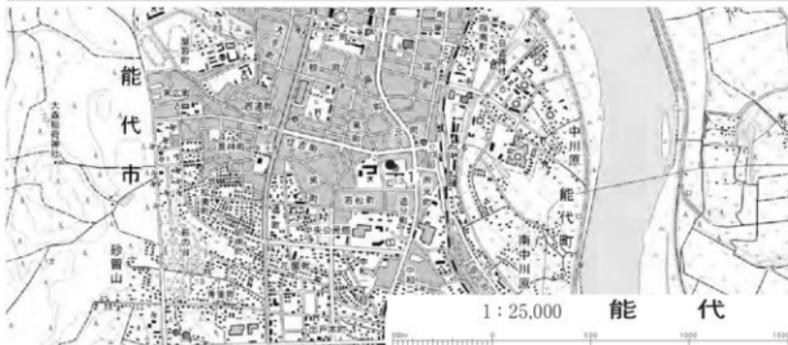
(5) 県立能代北高校解体事業

事業予定地について試掘調査を実施した。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。

本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	能代市迫分町	..	学校敷地	なし	



第6図 県立能代北高校解体事業 遺跡分布調査位置図

(6) 大仙警察署改築事業

事業予定地について試掘調査を実施した。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。

本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	大仙市大曲日の出町	..	宅地	なし	



第7図 大仙警察署改築事業 遺跡分布調査位置図

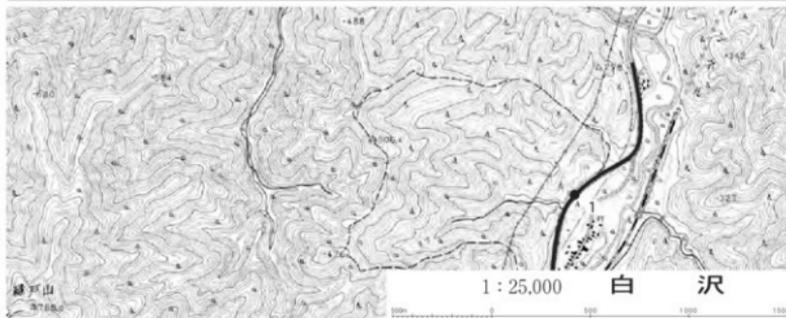
2 平成24年度分

(1) 長走登坂車線整備事業

事業予定地の現地踏査を実施した。

調査の結果、3か所で試掘が必要と判断し、来年度以降事業の進捗状況に合わせた試掘等の対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	大館市長走字陣場	..	山林	なし	



第8図 長走登坂車線整備事業 遺跡分布調査位置図

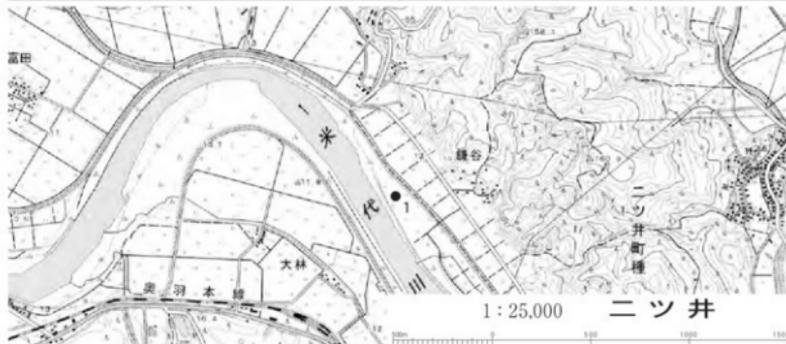
(2) 米代川河川改修事業(外面地区河道掘削)

事業予定地の試掘調査を実施した。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。

本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	能代市二ツ井町種外面字大正新田	..	河川敷	なし	



第9図 米代川河川改修事業(外面地区河道掘削) 遺跡分布調査位置図

(3) 金足自歩道工事

事業予定地について試掘調査を実施した。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、周辺地での踏査を含め、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	秋田市金足大清水	..	宅地	なし	



第10図 金足自歩道工事 遺跡分布調査位置図

(4) 石脇地区河道掘削護岸工事

事業予定地全域の踏査・試掘調査を実施した。

調査の結果、石器(剥片・石錘)が出土し、周知の遺跡(子吉川底遺跡)の存在を確認した。

今後は事業の進捗に合わせて確認調査等の対応が必要である。

No	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	子吉川底遺跡	由利本荘市川口字下葛蒲崎	縄文	河川	石器	子吉川水面下約1mに遺物包含層



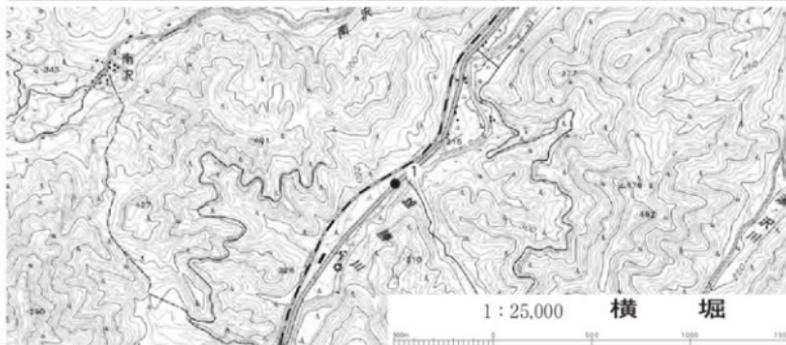
第11図 石脇地区河道掘削護岸工事 遺跡分布調査位置図

(5) 一般国道13号院内道路建設事業

事業予定地のうち、始点部分について試掘調査を実施した。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、周辺地での踏査を含め、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	湯沢市上院内字新雄勝	..	荒蕪地・山林	なし	



第12図 一般国道13号院内道路建設事業 遺跡分布調査位置図

(6) 醍醐交差点改良

事業予定地の現地踏査を実施した。今後、事業の進捗に合わせて試掘等の対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	横手市平鹿町醍醐字醍醐	..	宅地	なし	



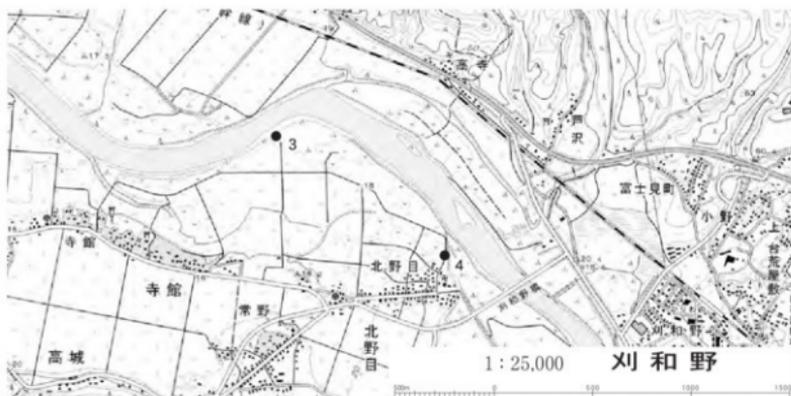
第13図 醍醐交差点改良 遺跡分布調査位置図

(7) 雄物川上流河川改修事業(寺館・大巻地区)

事業予定地のうち、二ツ橋樋門付近(測点番号No.34~36)、大巻樋門付近(測点番号No.53)、北野目区(測点番号No.103~114、No.128~130)について試掘調査を実施した。

調査の結果、二ツ橋樋門付近にて、周知の遺跡1か所(大川端道ノ上遺跡)を確認した。

No	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	大川端道ノ上遺跡	大仙市強首字根越・二ツ橋	縄文	山林	柱穴・縄文土器	平成23年度に新発見の遺跡
2	大仙市大巻字大川端	..	山林	なし	
3	大仙市協和峰吉川字穴切	..	荒蕪地	なし	
4	大仙市寺館字八卦	..	荒蕪地	なし	



第14図 雄物川上流河川改修事業(寺館・大巻地区) 遺跡分布調査位置図

(8) 雄物川上流河川改修事業(西板戸地区)

事業予定地のうち、西板戸第二樋門下流部(測点番号No.25~29)について試掘調査を実施した。

調査の結果、周知の遺跡である十二袋遺跡の北側隣接地において新発見の遺跡1か所(西板戸遺跡)を確認した。今後も事業の進捗に合わせて確認調査が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	西板戸遺跡	大仙市南外字西板戸	中世	宅地・荒蕪地・道路	土坑・陶器	新発見の遺跡



第15図 雄物川上流河川改修事業(西板戸地区) 遺跡分布調査位置図

(9) 雄物川上流河川改修事業(中村・芦沢地区)

事業予定地のうち、白滝川樋門から芦沢樋門箇所(測点番号No.26~51)と真崎野1区(測点番号No.18~25)について踏査および試掘調査を実施した。

調査の結果、新発見の遺跡1か所(峰吉川中村遺跡)を確認した。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	峰吉川中村遺跡	大仙市協和峰吉川字中村	古代・中世	旧宅地・畑地	土坑・カマド状遺構・陶器	新発見の遺跡
2	大仙市協和峰吉川字西野	..	荒蕪地	なし	



第16図 雄物川上流河川改修事業(中村・芦沢地区) 遺跡分布調査位置図

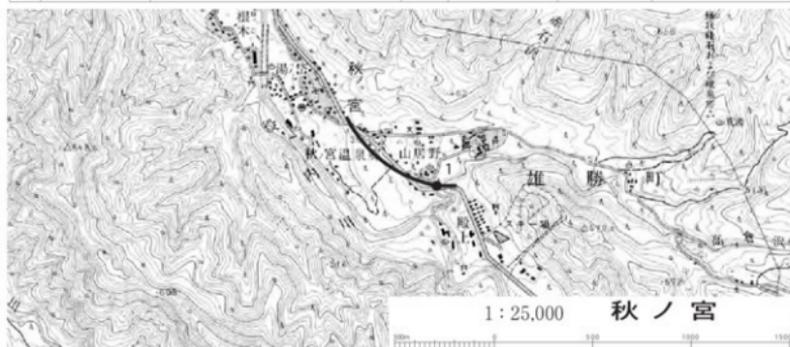
(10) 国道108号国道改築事業

事業予定地について試掘調査を実施した。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。

本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	湯沢市秋ノ宮	..	山林	なし	



第17図 国道108号国道改築事業 遺跡分布調査位置図

(11) 主要地方道象潟矢島線建設事業

事業予定地について試掘調査を実施した。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。

本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	にかほ市象潟町字荒屋妻	..	山林	なし	



第18図 主要地方道象潟矢島線建設事業 遺跡分布調査位置図

(12) 主要地方道大館能代空港西線建設事業

事業予定地について試掘調査を実施した。

調査の結果、周知の遺跡2か所(観音堂岱遺跡・小勝田館跡)を確認した。

今後、事業の進捗に合わせて確認調査等が必要である。

No	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	観音堂岱遺跡	北秋田市坊沢	縄文	畑地・山林	なし	周知の遺跡
2	小勝田館跡	北秋田市脇神	中世	山林	なし	周知の遺跡



第19図 主要地方道大館能代空港西線建設事業 遺跡分布調査位置図

(13) 主要地方道川添下浜停車場線建設事業

事業予定地について現地踏査を実施した。

調査の結果、周知の遺跡1か所(河童長根遺跡)を確認した。

今後、事業の進捗に合わせて確認調査等が必要である。

No	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	河童長根遺跡	秋田市下浜羽川	・・	山林、荒蕪地	なし	周知の遺跡



第20図 主要地方道川添下浜停車場線建設事業 遺跡分布調査位置図

(14) 一般県道秋田八郎潟線建設事業

事業予定地について試掘調査を実施した。

調査の結果、周知の遺跡1か所(貝保遺跡)を確認した。

今後、事業の進捗に合わせて確認調査等が必要である。

No	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	貝保遺跡	八郎潟町川崎貝保	・	宅地	なし	周知の遺跡



第21図 一般県道秋田八郎潟線建設事業 遺跡分布調査位置図

(15) 大館第2工業団地造成事業

事業予定地について踏査を実施した。

現時点で周知の遺跡が1か所(片貝遺跡)確認されており、対象地が広大であることから、来年度以降試掘調査が必要である。

No	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	片貝遺跡	大館市二井田字片貝	縄文	山林、荒蕪地	なし	周知の遺跡



第22図 大館第2工業団地造成事業 遺跡分布調査位置図

第2節 遺跡確認調査

1 一般県道北の又井川線建設事業

(1) 坂本湊城跡

1 遺跡所在地	秋田県南秋田郡井川町坂本字山崎38外
2 確認調査期間	平成24年4月13日
3 確認調査対象面積	34㎡
4 工事区域内遺跡面積	34㎡
5 工事区域内要本発掘調査面積	0㎡
6 遺跡の立地と現況	

a 立地

本遺跡は、JR奥羽本線井川さくら駅の東約2km、国道285号線の東側に隣接する標高15m前後の段丘上に立地する。

b 現況

調査地は、雑木やケヤキ等からなる荒蕪地で、最頂部には近世から現代の庚申塔が十数基建立されている。南側には井川町立井川中学校が隣接する。

7 確認調査の方法

現県道の法面をおよそ2m拡幅する工事であり、安定勾配を保った角度で掘削するため、通常のトレンチ設定は不可能であり、法面を精査して調査した。

確認調査における実質調査面積は34㎡である。

8 確認調査の結果

a 層序

- 第Ⅰ層 表土 層厚5～10cm
- 第Ⅱa層 黄褐色～褐色 盛土 層厚0～110cm
- 第Ⅱb層 黄褐色 盛土 層厚0～240cm
- 第Ⅲ層 暗褐色シルト 層厚0～30cm
- 第Ⅳ層 にぶい褐色 漸移層 層厚0～10cm
- 第Ⅴ層 黄褐色粘土 地山

第Ⅱ層の盛土は、第Ⅴ層の混入度合から2分した。第Ⅲ層はシルト質で、炭化物や焼土が比較的多く混入していた。第Ⅳ層は第Ⅴ層の地山漸移層と見られ、第Ⅲ層以下は、動かされていないと考えられる。

b 検出遺構と出土遺物

坂本湊城に伴う土塁を検出した(第Ⅱa・b層)。土塁は、2m以上の地山土などを盛り上げたものである。第Ⅲ層からは頸部に鈎状の突帯が付いた須恵器甕が出土した。

9 所見

a 遺跡の種類

城館跡と考えられる。土塁を構築する盛土からの出土遺物がないことから、詳細な時期は不明であるが、須恵器の出土から、古代以降に構築されたことは確実である。

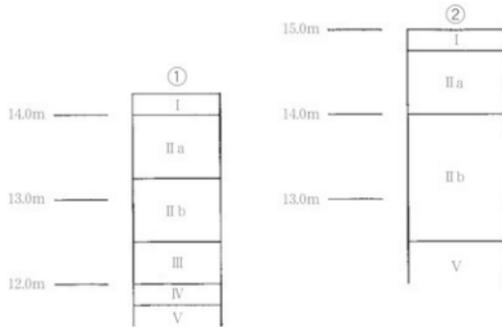
井川町史によると、昭和36年ころに現在の場所に井川中学校が建設された時に城郭の大部分が破壊されたものと想定されている。その際に、井戸跡が発見され、須恵器等のほかには黄瀬戸も出土したとされている。これらのことから、構築時期については中世の可能性が高い。

b 遺跡の範囲と工事区域

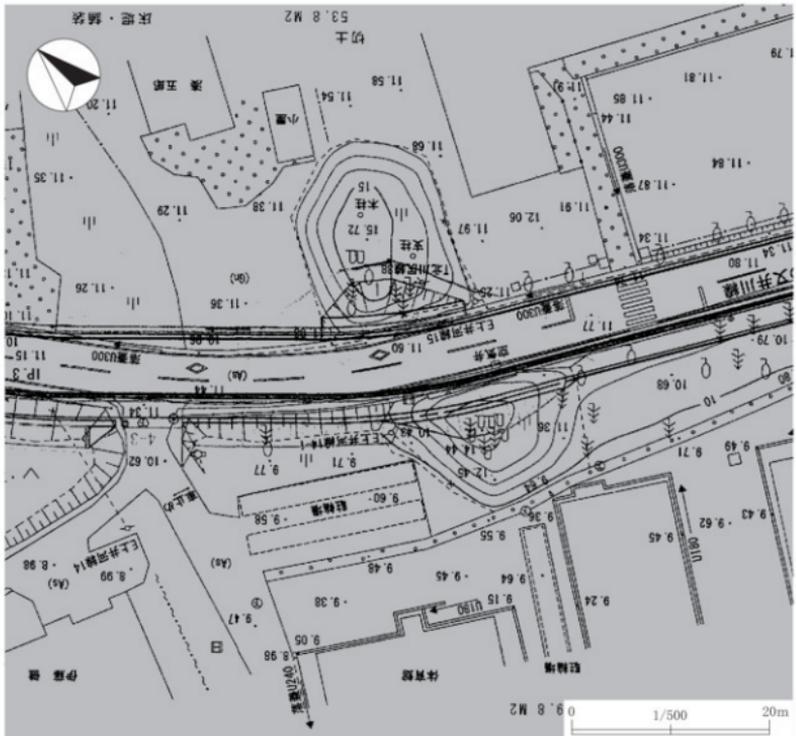
法面拡幅工事であり、通常の発掘調査が困難と判断し、本発掘調査対象から除外した。



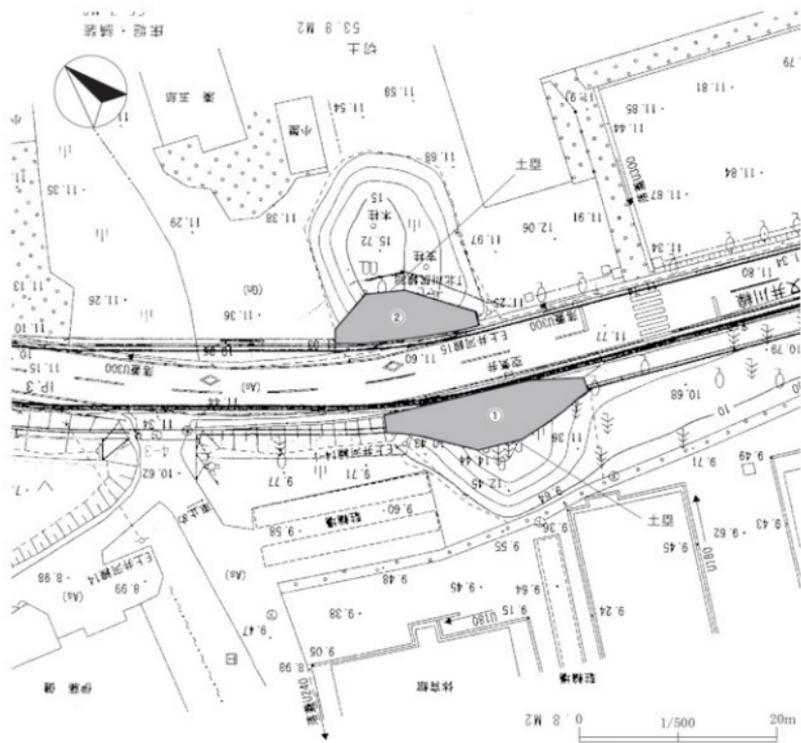
第23図 坂本湊城跡位置図



第24図 坂本湊城跡基本層序図



第25図 坂本湊城跡推定範囲図



第296図 坂本城跡確認調査結果図

①断面

(西から)



①断面

(北から)



②断面

(南から)



2 雄物川上流河川改修事業(西板戸地区)

(1) 十二袋遺跡

1 遺跡所在地	秋田県大仙市南外字十二袋162-3外
2 確認調査期間	平成24年5月24日～5月30日
3 確認調査対象面積	698㎡
4 工事区域内遺跡面積	698㎡
5 工事区域内要本発掘調査面積	0㎡
6 遺跡の立地と現況	

a 立地

遺跡はJ R奥羽本線神宮寺駅の西3.9kmに位置し、雄物川と楢岡川の合流点から南0.9km、楢岡川の左岸、標高約20mの台地上に立地する。遺跡周辺は西から北に流れを変える雄物川の氾濫原であり、現在でも豪雨の際には冠水するような地形である。

なお遺跡は、雄物川上流西板戸地区堤防整備事業に係る分布調査において、平成23年に発見・登録されたものである。

b 現況

調査対象範囲は宅地跡と杉林であり、杉林は確認調査実施に先立って伐採・搬出された。

7 確認調査の方法

調査は幅・長さともに任意のトレンチを設定して行った。調査範囲が狭小なうえ、杉根が多いため重機による掘削は行わず人力で掘削の後、確認面及びトレンチ壁面の精査を行い、遺構・遺物の有無を確認した。

調査の記録は、出土遺物の位置を示す平面図及び簡易土層図の作成と写真記録によった。

実質調査面積は82㎡で、確認調査対象面積の約11.7%に相当する。

8 確認調査の結果

a 層序

遺跡の基本層序は、次の通りである。

- 第I層 暗褐色(10YR3/3)シルト 表土 締まり強 粘性中 層厚5～10cm
- 第IIa層 褐色(10YR4/4)シルト 締まり強 粘性強 層厚15～45cm
- 第IIb層 にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト 炭化物1% 褐色土塊大20%混入 締まり強 粘性中 層厚10～25cm
- 第IIc層 黄褐色(10YR5/6)シルト 黒褐色土塊中～大2%混入 締まり強 粘性中 層厚40cm
- 第IIIa層 黒褐色(10YR3/2)シルト 褐色土塊中10% 暗褐色土塊中5%混入 締まり強 粘性強 層厚20cm
- 第IIIb層 暗褐色(10YR3/3)シルト 締まり強 粘性中 層厚10cm
- 第IIIc層 暗褐色(10YR3/3)シルト 褐色土塊小～中5%混入 締まり強 粘性中 層厚20～45cm
- 第IIId層 黒褐色(10YR2/3)シルト 黄褐色土塊中～大10%混入 締まり強 粘性強 層厚15～30cm
- 第IV層 褐色(10YR4/4)シルト 地山 締まり強 粘性強

遺跡内の基本層序は大別すると4層である。表土下に地山(第IV層)に近い褐色土・黄褐色土(第II層)が堆積していることが確認できる。これらの層厚は楕岡川に向かって厚くなることや地形的特徴から、河川の洪水堆積物と判断した。第IV層も同じく河川堆積層の可能性もあるため、部分的に1m以上掘り下げたが、堆積土に変化はなく地山と判断した。

b 出土遺物

遺構は検出されなかった。遺物は対象範囲の南側の第1トレンチ、第2トレンチ、第7トレンチから縄文土器片・石器片が出土した。出土した土器は摩滅が著しいため詳細は不明であるが、縄文時代後期のものと思われる。層位的には第III層と第IV層の層理面からの出土である。遺物量は中コンテナ0.5箱である。

9 所見

a 遺跡の種類

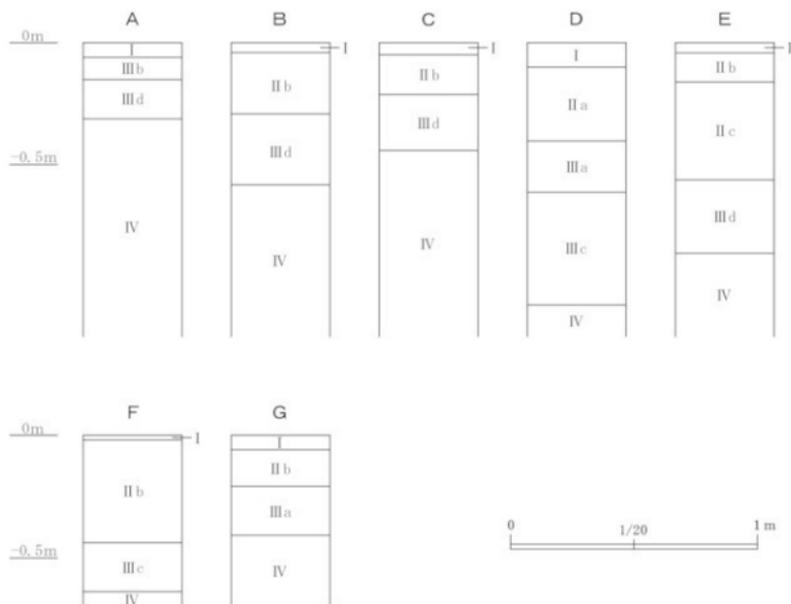
確認調査の結果から縄文時代の遺物散布地と推定される。遺構は確認できなかったが、調査区自体は縄文時代の集落の外縁部にあたる可能性も想定される。また、遺構が検出できなかったこと、遺物の摩滅が著しいことから、調査区は遺構・遺物の存在が極めて少ないものと考えられる。

b 遺跡の範囲と工事区域

遺構・遺物の状況から工事区域内における本発掘調査は必要ないものと判断した。



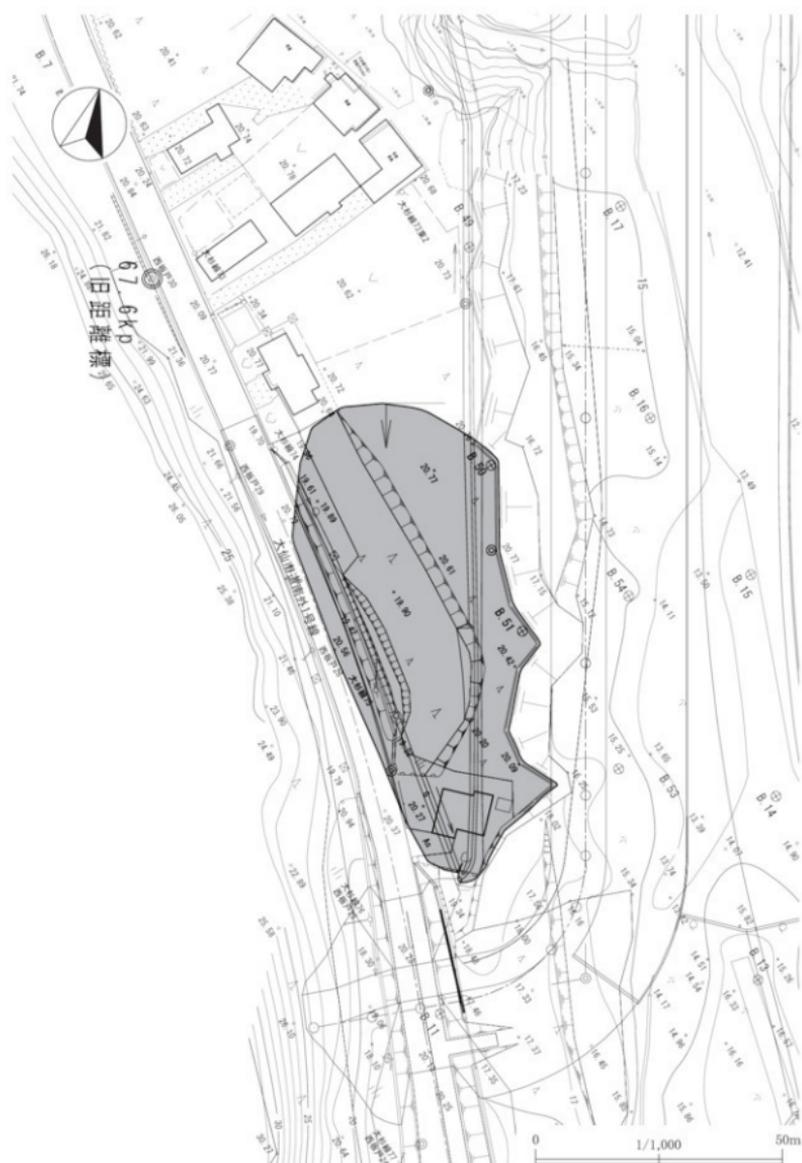
第27図 十二袋遺跡位置図



第28図 十二袋遺跡基本層序図



第29図 十二袋遺跡出土遺物実測図



第30図 十二袋遺跡推定範囲図

遺跡近景

(南から)



第2トレンチ

土層断面

(西から)



調査風景



3 雄物川上流河川改修事業(寺館・大巻地区)

(1) 大川端道ノ上遺跡

1 遺跡所在地	秋田県大仙市強首字大川端道ノ上26外
2 確認調査期間	平成24年5月30日～6月8日
3 確認調査対象面積	8,729㎡
4 工事区域内遺跡面積	8,729㎡
5 工事区域内要本発掘調査面積	7,700㎡
6 遺跡の立地と現況	

a 立地

遺跡はJR奥羽本線峰吉川駅の南西約1.7kmに位置し、雄物川左岸に形成された標高約17～18mの自然堤防上に立地する。本遺跡の東約1kmには、縄文時代の大巻遺跡があり、南西約1kmには雄物川の残存湖である乙越沼がある。

なお遺跡は、雄物川上流寺館大巻地区堤防整備事業に係る分布調査において、平成23年に発見・登録されたものである。

b 現況

調査対象範囲の大部分は畑として利用されていたが、現状は荒蕪地である。調査区北端・南端は雑木林となっており、立木が伐採されずに残っている。調査区中央からやや南よりを、農道が遺跡を横断している。

7 確認調査の方法

調査は、便宜上農道を挟んで北側をA区、南側をB区、B区のさらに南の地形的に一段下がる地区をC区として進めた。各調査区に幅・長さともに任意のトレンチを設定した。トレンチはA区に8か所、B区に8か所、C区に27か所設けて、重機による掘削の後、確認面及びトレンチ壁面精査を行い、遺構・遺物の有無を確認した。一部のトレンチにおいては人力で掘削した場所もある。

調査の記録は、検出遺構と出土遺物の位置を示す平面図及び簡易土層図の作成と写真記録によった。また、一部の遺構については土量を把握するために半載した。

実質調査面積は1,167㎡で、確認調査対象面積の約13.4%に相当する。

8 確認調査の結果

a 層序

遺跡の基本層序は、A区(J～Q)、B区(A～H)、C区(R～T)での土層観察結果を記載する。

第I層	黒褐色(10YR2/2)シルト 表土 締まり強 粘性中 層厚10～40cm
第IIa層	褐色(10YR4/4)シルト 締まり強 粘性中 層厚10～30cm
第IIb層	暗褐色(10YR3/4)シルト 締まり強 粘性中 層厚5～50cm
第IIc層	暗褐色(10YR4/3)シルト 締まり強 粘性中 層厚30cm
第IIIa層	黒褐色(10YR2/3)シルト 遺構検出面 締まり強 粘性中 層厚30cm
第IIIb層	暗褐色(10YR3/3)シルト 遺構検出面 締まり強 粘性中 層厚20～35cm
第IV層	暗褐色(10YR4/3)シルト 地山漸移層 締まり中 粘性中 層厚5～50cm
第Va層	黄褐色(10YR5/6)シルト 地山 締まり中 粘性中
第Vb層	褐色(10YR4/6)シルト 地山 締まり強 粘性中

遺跡内の基本層序は大別すると5層である。A区・B区ともに耕作により攪乱されているため、第Ⅲ層を全域では確認できなかったが、検出した遺構内に堆積している土と同一であることから、縄文時代の生活面は第Ⅲ層である。C区ではこの第Ⅲ層上面で柱穴を検出している。

b 検出遺構と出土遺物

A・B区においては、13か所のトレンチから遺構・遺物が確認され、調査対象地区の全域が遺跡であることを確認した。C区においては第18トレンチで柱穴、第18・28・40トレンチから縄文土器片を確認した。このC区の遺構・遺物を検出した土と同質の土層は、同区北西のB区に隣接する範囲に分布する。南東側では、攪乱により第Ⅳ層まで削平を受けていることが確認され遺構・遺物は検出されなかった。

検出された遺構は、フラスコ状土坑3基、溝跡3条、土坑45基、柱穴3基であった。出土遺物は、縄文土器・石器であり、合計の遺物量は中コンテナ1箱である。

9 所見

a 遺跡の種類

検出遺構と出土遺物から縄文時代後期の集落跡と推定される。今回の調査ではフラスコ状土坑や多数の土坑を確認しており、集落の中でも貯蔵域に当たるものと想定される。

b 遺跡の範囲と工事区域

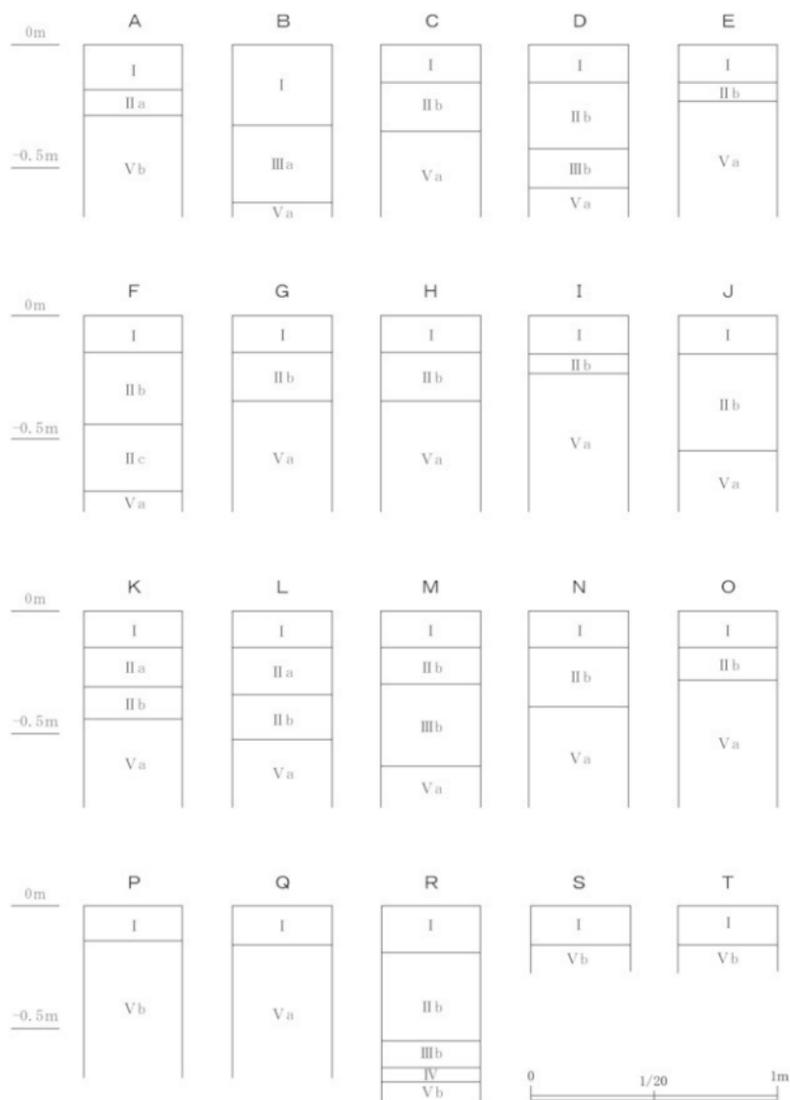
調査が必要な範囲は、トレンチ調査の結果、A・B区の全域、及びC区の削平を受けていない北西側部分である。

c 発掘調査時に予想される遺構と遺物

遺構は、縄文時代のフラスコ状土坑、溝跡、土坑、柱穴の他に竪穴建物跡あるいは竪穴状遺構等が検出されると考えられる。遺物は、縄文土器・石器が中コンテナ50箱程度は出土すると予想される。



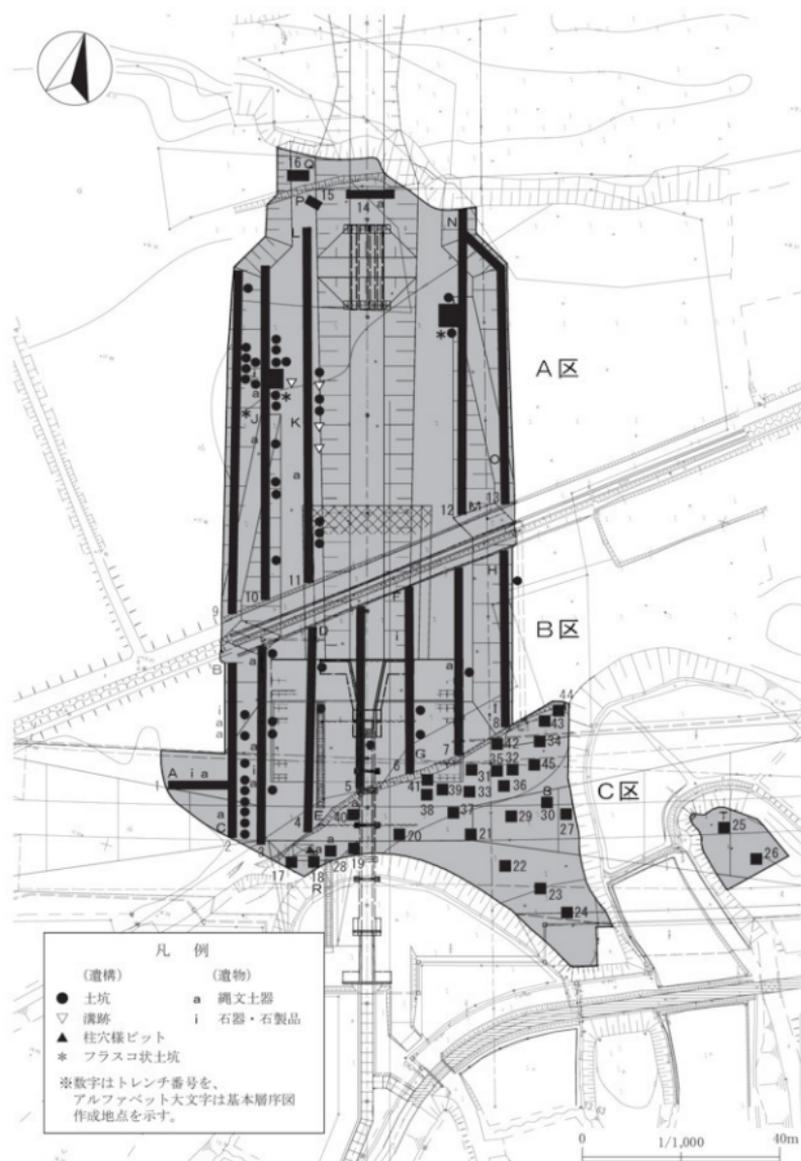
第32図 大川端道上遺跡位置図



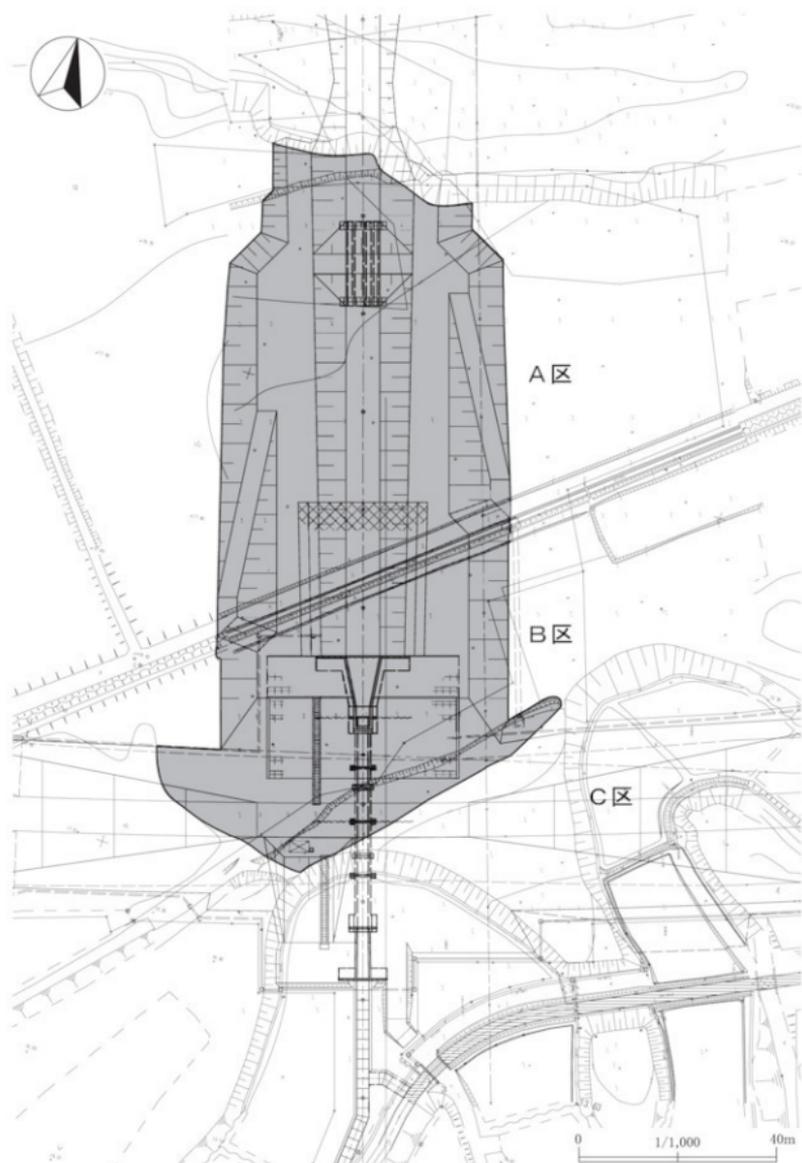
第33図 大川隧道ノ上遺跡基本層序図



第34図 大川端道ノ上遺跡推定範囲図



第35図 大川端道ノ上遺跡確認調査結果図



第36図 大川端道上遺跡要本発掘調査範囲図



遺跡近景
(南から)



第10トレンチ
遺構検出状況
(北から)



フラスコ状土坑
半截断面 (東から)

4 雄物川上流河川改修事業（中村・芦沢地区）

(1) 峰吉川中村遺跡

1 遺跡所在地	秋田県大仙市協和峰吉川字中村15-8外
2 確認調査期間	平成24年10月22日～11月2日
3 確認調査対象面積	11,850㎡
4 工事区域内遺跡面積	8,550㎡
5 工事区域内要本発掘調査面積	8,550㎡

6 遺跡の立地と現況

a 立地

本遺跡はJR奥羽本線峰吉川駅から東南東へ1.7km、雄物川右岸の標高17～18mの微高地にある。遺跡の南側0.2kmには雄物川が西流し、0.1km南東方向には古くからの船着き場も残っている。遺跡の北側には羽羽丘陵があり、0.8km北東の丘陵上には中世城館の館ノ沢館跡がある。丘陵の南縁に沿うように東西に国道13号線が走り、それに平行して奥羽本線が走る。遺跡は国道から南へ直線距離で0.8km離れて位置する。遺跡周辺は、北側が主に水田として利用されており、1m前後低い。遺跡の南側は2～3mほど低く、水田や畑地として現在も利用されている。さらにその南側の川縁には、スギなどの針葉樹を主体とする河畔林が見られる。

b 現況

調査対象範囲は、約20年前に移転した旧中村集落跡と旧水田であり、現在は荒蕪地である。確認調査時は、集落跡と水田跡の区別不可能なほど雑草が繁茂していた。調査対象範囲の南西端側には墓地が残り、確認調査時点では未買収地であった。

7 確認調査の方法

調査は幅1mのトレンチを第1トレンチから第31トレンチまでの計31本設定し、重機で掘り下げた。その後、人力でトレンチ壁面・底面等を精査し、遺構・遺物の有無を確認した。確認した遺構・遺物は、写真撮影後に位置を記録し、遺物に関しては取り上げを行った。実質調査面積は732㎡で、確認調査対象面積の約6.2%に相当する。

8 確認調査の結果

a 層序

調査対象範囲内の層序は次のとおりである。なお、第I層は耕作土を含む表土か盛土、または攪乱層、第II層は基本的に洪水堆積層、第III層が古代から中世にかけての遺物包含層、第IV層は、遺跡の基盤層と判断される。第I層はその多くが盛土であったり、攪乱層であったりするため、廃材や砂利が多く混じっている層をa層、比較的土層の整った水田耕作土由来の層をb層とした。また第II層については、旧水田耕作土と推定されるグライ層をb層にして分離し、残りの洪水堆積層をa層とした。

第I a層 灰黄褐色(10YR4/2)。表土。層厚15～30cm。随所で近現代での宅地化に伴う整地層となっている。

第I b層 暗灰黄色(2.5Y4/2)～灰黄色(2.5Y6/3)。近現代の水田耕作土。層厚20～40cm。

第II a層 灰黄褐色(10YR4/2)～にぶい黄褐色(10YR5/3)。洪水堆積層。砂質土と粘土が混合。層厚5～30cm。

第Ⅱb層 緑灰色(10GY6/1)砂質土と粘土が混合。洪水堆積層と考えられるが、一時期水田化された痕跡を示す部分も見られる。層厚10～13cm。

第Ⅲ層 暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト。古代から中世の遺物包含層。層厚10～15cm。

第Ⅳ層 明黄褐色～灰黄色(2.5Y6/6～2.5Y6/2)粘質土。地山。

b 検出遺構と出土遺物

調査の結果、調査区中央部から西寄りにかけてと調査区東部を南北に貫く町道の両側で遺構・遺物が検出された。東部の第2トレンチでは土坑1基、第24トレンチで土坑2基と柱穴様ビット1基を、第25トレンチでは土坑1基、柱穴様ビットを1基検出した。中央部においては、第6トレンチ南端でカマド状遺構、第8トレンチで土坑、第11トレンチで焼土遺構、第20トレンチで柱穴様ビット群を検出した。この付近では掘立柱建物跡が分布する可能性が高い。第12・13トレンチの交差点付近では径1mほどの円形の土坑が確認でき、井戸跡の可能性も考えられる。西部については、第16トレンチから中世陶器片を伴う井戸跡を検出した。遺構はいずれも第Ⅳ層上面で検出されたが、構築時期に関しては古代～中世に属する可能性が高い。

9 所見

a 遺跡の種類

掘立柱建物の柱穴やカマド状遺構、井戸跡などの遺構や土師器、須恵器、中世陶器、土製品、鉄滓などが検出されていることから古代から中世の集落跡と考えられる。

b 遺跡の範囲と工事区域

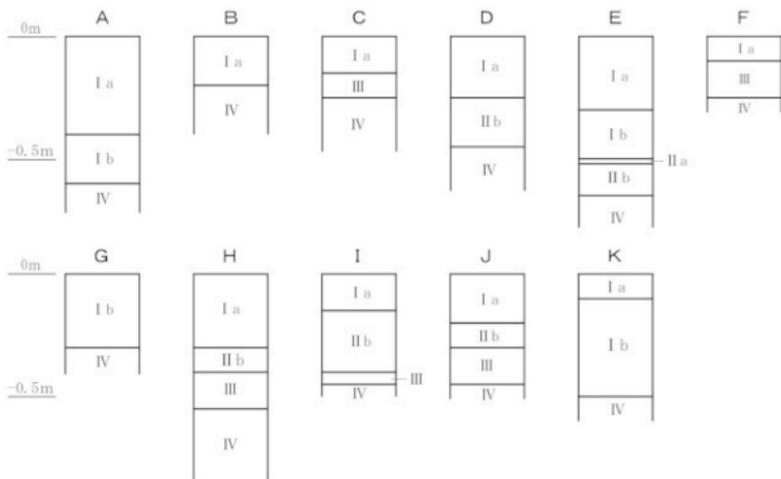
遺跡の広がりや、周囲の水田よりも一段高い微高地のほぼ全域にわたると考えられる。本発掘調査の対象範囲は基本的に堤防堤体がこの微高地にかかる範囲となる。ただし、水田耕作に伴い基盤層上面まで大きく削平され、遺構・遺物も検出されなかった中央部と北東部の旧水田部分については、発掘調査必要範囲から除外した。以上から、西部5,650㎡と東部2,900㎡の合わせて8,550㎡が発掘調査必要範囲と判断される。

c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

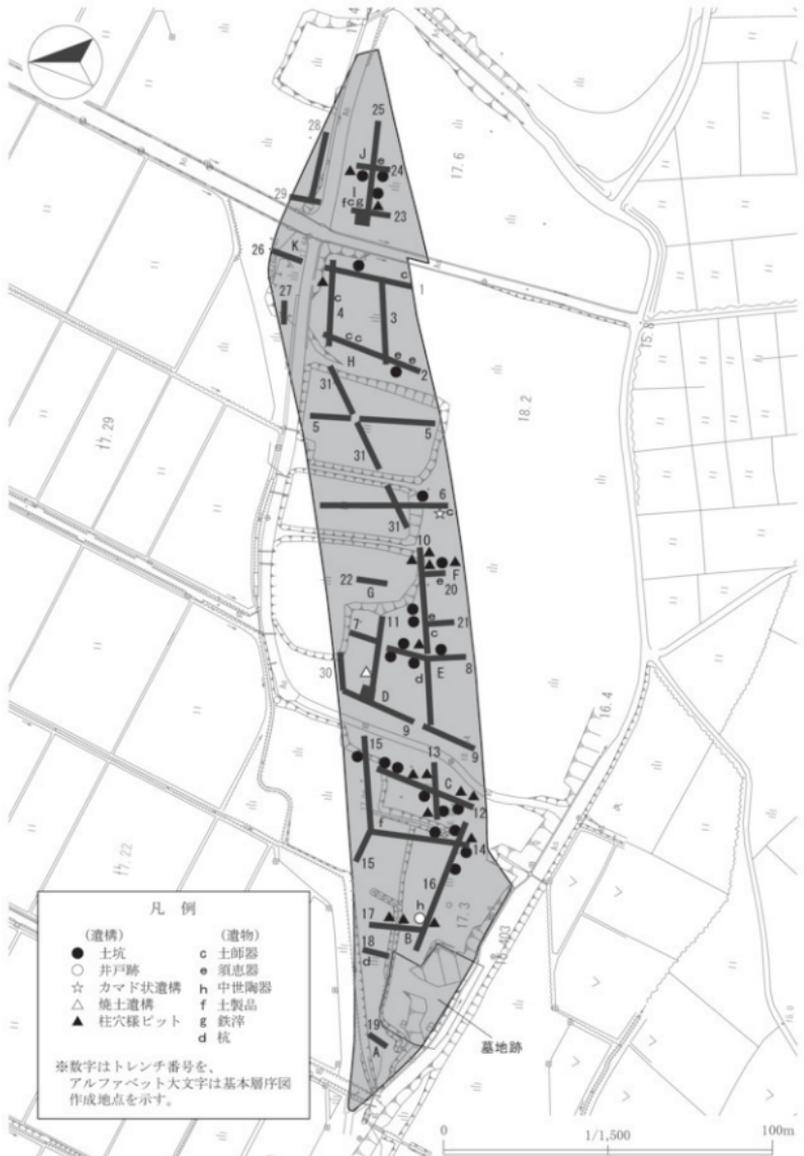
遺構は、掘立柱建物跡、土坑、井戸跡、カマド状遺構、焼土遺構、鍛冶炉、柱穴様ビットなどが検出されると予想される。遺物は、古代から中世の土器、陶磁器、鍛冶滓、木製品などが中コンテナで30箱程度出土すると予想される。



第37図 峰吉川中村遺跡位置図



第38図 峰吉川中村遺跡基本層序図



第40図 峰吉川中村遺跡確認調査結果図



第41図 峰吉川中村遺跡要本発掘調査範囲図

調査区近景（西から）
※奥は雄物川に面する
河畔林



第16トレンチで検出した
井戸跡と中世陶器
（南から）



第6トレンチで検出した
カマド状遺構
（東から）



秋田県文化財調査報告書第486集
遺跡詳細分布調査報告書

印刷・発行 平成25年3月
編 集 秋田県埋蔵文化財センター
〒014-0802 秋田県大仙市弘田字牛嶋20番地
電話 (0187) 69-3331 F A X (0187) 69-3330
発 行 秋田県教育委員会
〒010-8580 秋田市山王三丁目1番1号
電話 (018) 860-5193
印 刷 有限会社 暁 印 刷

